

アフリカ・ケニア共和国でスポーツとかかわるフィールドワーク

田暁潔（筑波大学体育系 助教）

目黒紀夫（広島市立大学国際学部 准教授）

萩原卓也（国立民族学博物館 外来研究員）

【発表要旨】

日本のアフリカ研究は、1960年代から人類学的・生態学的な調査を中心に始まり、研究者たちの関心の拡大とともに、生物学や医学、農学などの自然科学系、または社会学、文化人類学、人文地理学などの人文・社会系の諸分野も発展してきた（椎野, 2008）。特に人文・社会系の研究は、フィールドワークに基づく現場主義が重要視され、現代アフリカの諸現象を理解するためにも、実証的なフィールド調査の伝統を受け継いできた。そのなかで、遊びや伝統舞踊・競技、または現代スポーツ競技、スポーツイベントなどに着目した研究が多く見られるものの、それらの多くは実際にスポーツにかかわる人々の実践を理解するより、地域社会の文化的特徴と社会・環境問題についての議論を進めてきた。アフリカにおけるスポーツについての理解はかなり限られていると言えよう。

スポーツに着目することは、アフリカの過去、現在と未来にかかわる新たな発見につながっており、これからのアフリカ研究においても重要な課題である。本発表は、ケニア共和国でスポーツとかかわる文化人類学的・社会的な研究を実施している、3人のフィールドワーカーによって行われる。具体的には、発表者それぞれのフィールドにおける「聞く」「観る」「成る」の経験から自分の研究を説明し、そのうえで、ケニアのスポーツとかかわる研究課題とその可能性を来場者とともに考えたい。

【各発表者の題目】

- 1) 都市部のスポーツ事情と文化人類学のフィールド調査－自転車競技を中心に－（萩原）
- 2) マサイ・オリンピックに関する環境社会学のフィールド調査（目黒）
- 3) マサイの子どもの遊び・学びと文化人類学のフィールド調査（田）



自転車競技の選手たち（萩原）



マサイ・オリンピック（目黒）



マサイ・放牧ごっこ（田）